

## 取組進捗状況管理シート

川崎病院

## 取組課題 1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>								
①救命救急医療の充実	①救命救急センターの安定的な運営及び体制強化に向けた救命医及び救急救命士の安定的な確保 ②川崎市メディカルコントロール協議会等、市内関係会議への参加及び協力 ③救命救急センター厚労省評価基準S級の維持	三次救急搬送患者 心需率	100.0%	96.9%	96.9%	96.9%	97.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>救命専門医および救急科専攻医、救命救命士は安定して確保できており、救命救急センターの安定した運用に寄与しています。</li> <li>川崎市メディカルコントロール協議会の参加は順調に行われています。</li> <li>救命救急センター厚労省評価基準S級の条件となる点数は年々上がっていますが、薬剤師の救命救急センターへの配置により、S級評価を維持できるよう取り組みます。</li> <li>近年減少傾向にあった救急自動車搬送受入件数については、令和元年度で下げ止まり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響等により市内全体の救急搬送数が大きく減少している中、積極的に受入れを行っています。</li> </ul>
		救急自動車搬送 受入件数	7,200件	2,932件	5,864件	81.4%	5,819件	
②災害医療機能の維持	①派遣要請対応 ②各種訓練実施・参加 ③DMAT隊員の養成 ④患者に合わせた備蓄食料の拡充 ⑤災害時対応機能の拡充	災害派遣医療 チーム等の派遣 要請心需率	90.0%以上	派遣要請なし	100.0%	111.1%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>DMAT派遣要請対応は、2月に発生した「ダイヤモンドプリンセス号」からの新型コロナウイルス感染患者の搬送に出動しました。</li> <li>昨年の秋までは消防署の訓練に協力しました。2020年に関しては、新型コロナウイルス蔓延のため、訓練は中止になっています。</li> <li>DMAT隊員の養成は、現在おこなっていません。</li> <li>備蓄用飲料水及び食品は消費期限に応じて入れ換えを行うとともに、患者さんの状態に応じた摂取しやすい食材への変更も進めています。</li> <li>今後も継続して隊員の技能維持、養成、備蓄の強化に努めていきます。</li> </ul>
		食料・飲料水・ 医薬品の院内 備蓄確保量	3日間分	3日間分	3日間分	-	3日間分	
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>								
○がん診療機能の強化	①神奈川県がん診療連携指定病院の継続 ②がん診療の充実・強化及び関係医療機関との連携・推進 ③PET-CTの運用促進	がん登録数 (報告値)	1,350件以上	650件	1,500件	111.1%	1,650件	<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県がん診療連携指定病院の指定については、引き続き指定要件の充足を確認し、カンサーボードの開催等の内容の充実を進めます。</li> <li>がん手術件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により件数が落ち込んだものの、徐々に前年並みの件数に戻ってきています。</li> <li>PET-CTは共同利用率が徐々に上昇しています。更なる利用率向上に向けて関係病院への患者紹介促進の取組を進めます。</li> </ul>
		神奈川県がん診療連携 指定病院の指定	維持	維持	維持	-	維持	
		がん手術件数	1,160件	519件	1,160件	100.0%	1,041件	
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>								
①小児・周産期医療の確保	①近隣の周産期医療機関との協力体制の強化 ②周産期・小児医療サービスの向上 ③周産期メンタルヘルスケアの充実	周産期救急搬送 患者受入件数	130件以上	47件	94件	72.3%	77件	<ul style="list-style-type: none"> <li>「救急面の活動性」を表す「周産期救急患者受入数」は、目標には至りませんでした。近隣周産期医療施設との連携を今後も維持する方針です。</li> <li>「周産期医療の地域的ニーズの規模」を表す「NICUおよびGCUにおける新規入院患者数」は、昨年度の3分の2に減少しました。コロナ禍の影響が大きく、今後、分娩件数の大きな増加が見込まれていないことから、周産期救急関連の入院数を維持していくことが課題です。</li> </ul>
		NICU及びGCUにお ける新規入院患者数	332人	97人	200人	60.2%	282人	
		分娩件数	1,065件	390件	720件	67.6%	923件	
②内視鏡検査・治療の充実	①地域医療機関からの検査依頼受入れの拡充 ②内視鏡検査異常所見を認めた患者への適切な処置及び経過観察 ③膵・肝胆内視鏡検査の正確な診断と適切な治療の実施	内視鏡検査件数	8,100件以上	3,004件	6,700件	82.7%	8,113件	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半期の実績については、いずれの内視鏡検査もコロナ禍の影響で伸び悩んでいましたが、8月を過ぎてから回復の兆しが見えてきており、今後は順調に件数の増加が図れるものと考えています。</li> <li>地域の医療機関との連携を強化する方針で、新たに下部消化管内視鏡検査も患者総合サポートセンター経由で依頼できる仕組みを構築しました。</li> <li>高齢者増加による状況を鑑み、内視鏡検査の必要性を地域に啓蒙していくことがこれからの課題と考えています。</li> </ul>
		内視鏡治療件数	1,110件以上	478件	1,000件	90.1%	1,251件	
③チーム医療の推進	①栄養サポートチームによる効率的な栄養管理の実施 ②栄養サポートチーム専任者育成のための認定研修会への参加推進 ③病院職員を対象としたNST研修会の実施 ④呼吸サポートチーム、認知症ケアチーム、褥瘡対策チームによる回診、カンファレンスの実施 ⑤緩和ケア提供のための継続的な体制整備及び患者総合サポートセンターとの連携強化 ⑥病棟薬剤師の配置病棟の拡充	栄養サポートチーム 回診延べ患者数	1,800人以上	779人	1,558人	86.6%	1,780人	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種による週1回のラウンドに加え、専任看護師による病棟訪問とベッドサイド訪問を毎日実施しています。</li> <li>栄養サポートチーム回診は、上半期新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数が減少し、回診件数も減少しました。8月～9月にかけては嚥下造影検査実施患者が増加し、回診件数も昨年と同程度となりました。10月からはNST回診を摂食嚥下支援チームとNSTチームに分け、回診の効率化と多職種連携による栄養管理を行っていきます。</li> <li>9月から病棟薬剤師を新たに1病棟追加し、3病棟に病棟薬剤師を配置しました。また、救命救急センターへの薬剤師の配置に向けて積極的なリクルート活動を行います。</li> </ul>
		緩和ケアチームによる 症状緩和実施患者数	250人以上	46人	100人	40.0%	173人	

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

## 取組課題 1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(%)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>								
①地域医療連携の推進	①地域医療支援病院の継続 ②地域医療連携の会の開催 ③紹介元医療機関への返書等による情報交換の推進 ④病院・診療所等訪問の実施 ⑤PET-CT等検査機器の共同利用促進 ⑥県難病医療支援病院としての取組の推進	地域医療支援病院の承認	継続	継続	継続	-	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月以降医療機関訪問を再開し、横浜市鶴見区や東京都大田区など隣接する地域の医療機関への訪問を前年度と比較して積極的に行っています。また、10月28日には「地域医療連携の会」を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを活用したオンライン形式で開催しました。</li> <li>検査機器の共同利用については、予約可能な時間帯の見直しを行い、改善しました。</li> </ul>
		紹介率	50.0%以上	70.5%	72.0%	144.0%	71.3%	
		逆紹介率	70.0%以上	97.7%	100.0%	142.9%	92.5%	
②地域包括ケアシステムの推進	①「地域ケア懇談会」の実施 ②地域の医療従事者を対象とした症例検討会や勉強会の開催 ③多職種協働による地域連携の推進 ④退院時共同会議、介護支援連携会議の促進 ⑤地域の看護、介護従事者を対象とした研修会等の開催	検査機器の共同利用件数	500件以上	381件	762件	152.4%	817件	<ul style="list-style-type: none"> <li>上半期については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域ケア懇談会、勉強会、症例検討会等は開催を見送っています。下半期はZoomの活用などオンライン形式を含めて開催を検討していきます。</li> </ul>
		地域ケア懇談会開催数	2回	0回	2回	100.0%	2回	
		勉強会・症例検討会等への地域の医療・介護従事者等参加延数	900人	0人	100人	11.1%	670人	
<b>取組項目(5) その他医療提供体制の強化</b>								
①精神科救急医療の強化	①県精神科救急体制に対応するための県応需病床2床の円滑な運営 ②救急応需に必要な精神保健指定医の確保、精神保健福祉士の維持 ③総合病院精神科の役割として精神疾患を有する身体合併症患者の受入れの実施（病連携、病診連携、院内他科連携）	精神科救急患者受入数（三次及び二次のみ）	29人	17人	30人	103.4%	17人	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神科救急患者受入数については、上半期の実績では目標値に達しましたが、引き続き、救急患者の受入れが円滑にできるよう運用を続け、病連携の促進、県精神科救急体制との調整などを進めていきます。</li> <li>精神科救急患者の受入は、当院で応需した救急患者の後方移設がなされ、応需病床空床ができることが前提となります。上半期の平均在院日数については目標に達していますが、今後も救急体制が円滑に行えるよう、県及び他政令指定都市に協力していきます。</li> </ul>
		精神科救急応需病床（2床）における平均在院日数	17.0日	15.1日	16.0日	106.3%	20.7日	
②感染症医療の確保	①川崎市新型インフルエンザ等対策検討委員会への参加による診療体制確保及び周辺医療機関との役割分担の確認 ②検査所との合同患者受入訓練実施による対応方法強化、個人防護具の着脱訓練、及び感染対策や管理に従事する職員の育成	保健所からの要請に基づく二類感染症患者入院要請応需率（結核患者を除く）	100%	100%	100%	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年2月6日（木）より、ダイヤモンドプリンセス号の新型コロナ陽性患者の受け入れを実施しました。</li> <li>発生した患者数を考慮し、受入可能病床数を当初6床であったところを病床を最大32床まで拡大しました。</li> <li>また、市内でも重症患者の受け入れを担い、コロナ陽性者123名、疑似症58名、延べ181名の入院対応を行いました。</li> <li>受け入れに伴い、関わる医療従事者のコロナ感染事例は発生していません。</li> </ul>
③リハビリテーション機能の強化	①新規採用職員の育成 ②病棟との連携強化 ③病棟でのリハビリテーションの拡充 ④早期離床の推進	自宅等に退院した患者の割合（一般病床）	95.4%	94.0%	95.4%	100.0%	95.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅等に退院した患者の割合は、概ね目標を達成しています。</li> <li>上半期のリハビリテーション実施単位数は、目標値より高い水準を維持しています。</li> <li>引き続き、適正なりハビリテーションを継続して行うとともに、新規採用職員の育成、臨時職員採用、院内連携強化、病棟リハビリテーション拡充、早期離床推進に努めます。</li> </ul>
		リハビリテーション実施単位数	89,000単位	47,900単位	100,000単位	112.4%	73,466単位	
④医療機能再編整備の推進	①機能再編推進委員会を適宜開催 ②エネルギーサービス事業により、エネルギー棟・給水ポンプ棟増築の設計完了、工事着手 ③救命救急センター棟増築・既存棟改修の設計の実施	-	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>「川崎病院医療機能再編整備基本計画」（平成30年3月）に基づき事業を実施しています。事業実施等に当たっては、機能再編推進委員会を5、7、9月に開催し、進捗報告、方向性の確認等を行いました。今後も、12、3月に機能再編推進委員会の開催を予定しています。</li> <li>エネルギー棟・給水ポンプ棟の増築については設計を進めており、今年度中に工事に着手する予定です。</li> <li>救命救急センター棟増築・既存棟改修については設計を進めており、今後、整備対象診療科等に個別ヒアリング等を予定しています。</li> </ul>

※R2.4月～9月（6ヶ月間）の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(%)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 人材の確保と育成の推進</b>								
①医療従事者の確保	質の高い医療・看護を安定的に提供していくため優秀な医療人材の安定確保を図る。 ①採用選考の適切な実施による、優秀な臨床研修医、専攻医の確保 ②大学医局等との連携による、常勤医の円滑な採用 ③看護師確保のための学校訪問、インターンシップ及び見学会、助産師・看護師・その他医療技術職の学生実習の受入等の実施	職場に対する総合的な職員満足度〔職員満足度調査〕	45.0%以上	-	-	-	31.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>臨床研修医の採用選考を8月に3回実施しました。専攻医の採用選考については、日本専門医機構のスケジュールを踏まえ、適切に実施します。</li> <li>大学医局等との連携により、上半期は常勤医師を5名採用しました。</li> <li>感染対策を講じながら会場のレイアウトの工夫や募集人数を制限し、病院説明会を1回、病院見学会を2回実施しました。(病院説明会の参加者は35名、病院見学会の参加者は合わせて29名)</li> </ul>
		レセプト査定率	0.40%以下	0.32%	0.40%	100.0%	0.33%	
②職員の専門能力の向上	①初期臨床研修プログラムによる初期臨床研修医の指導、育成の推進 ②在職医師への臨床研修指導医講習会受講の推進 ③地域包括ケアシステムに参画できる認定看護師の育成 ④各種医療技術職員向け研修受講の推進・支援 ⑤看護師の特定行為研修の受講による専門的な知識及び技能の向上	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	60.0%	-	-	-	48.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>今年度は創傷ケアモデルの特定看護師2名が活動しており、集中ケア・認知症ケアの認定看護師が特定行為研修を受講しています。今後も医療のニーズに合わせた専門的知識・技術を習得し、質の高い看護の提供に努めていきます。</li> <li>川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラムにより、初期臨床研修医の指導、育成を引き続き行っていきます。</li> <li>臨床研修指導医講習会は受講料を当院が負担し、受講を推進しています。</li> </ul>
		認定看護師の人数	27名	33名	33名	122.2%	33名	
		研修医1人あたりの指導医数	3.2名	3.2名	3.2名	100.0%	3.3名	
③働きやすい職場づくり	①働き方改革推進委員会によるワーク・ライフ・バランスを実現する働く環境の整備 ②医師事務作業補助者のスキルアップを含めた拡充による医師等の業務負担の軽減 ③子育て支援や会計年度任用職員等の活用など、多様な働き方の推進	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	45.0%以上	-	-	-	37.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>医師の働き方改革について、「当院の考え方と患者さんへのお願い」及び「病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画」をホームページに掲載するとともに、院内に掲示しました。</li> <li>医師事務作業補助者をさらに募集するため、ポスターを作成し、掲示しました。今後も医師事務作業補助者の安定的な雇用に向け、新たな広告手法を検討します。また、医師事務作業補助者を対象とした研修について、より多くの職員が実践的な研修を受けられるよう、開催時間や内容の見直しを行い、医師事務作業補助者のスキルアップを図りました。</li> <li>看護助手をさらに募集するために、ポスターを作成し、新たな広告活動を行いました。また、看護助手業務の内容を見直し、協働できる体制づくりに取り組んでいます。</li> </ul>
<b>取組項目(2) 医療安全の確保・向上</b>								
○医療安全・院内感染対策の推進	①インシデントレポートおよび定期的な院内巡回により、各部門の医療安全管理の状況を把握、分析 ②医療安全確保のために必要な業務改善等の具体的な対策を推進 ③医療安全対策に係る職員研修を企画・実施 ④院内感染対策への取組みとして、サーベイランスの実施、アウトブレイクの早期発見、ICT介入による早期終息 ⑤感染対策部会のリンクスタッフらによる手指衛生の向上に向けた取組の推進 ⑥院内感染対策講習会として、全職員向けに複数回の研修会を開催	体制の確保 (「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出)	届出(継続)	-	届出(継続)	-	届出(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インシデントレポートの提出を推進し、毎月約400件の報告を受け、重要インシデントについては共有し、対策を立案しました。医療安全対策にかかる院内巡視についても、毎週、多職種チームで実施し、医療安全管理の現状の把握と対策の検討を行っています。</li> <li>患者誤認防止や検査報告書の未読防止など、インシデントレポートをもとに、業務改善を進めています。</li> <li>医療安全にかかる研修について、新型コロナウイルス感染症対策と両立できるよう、集合研修から職場単位の研修に切り替えて実施し、効果測定により研修評価を行っています。</li> <li>院内感染対策への取り組みとして、BSI/UTI/SSI/血液曝露/耐性菌サーベイランスを実施しました。</li> <li>院内感染対策研修会について、Webなどを利用して各自で研修資料から学び、アンケート及び小テストによる知識確認方式を検討しています。</li> <li>手指衛生については前年度よりポシット管理へ移行を進めています。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で物流が滞り、予定よりポシット管理への移行が遅れています。</li> </ul>

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(3) 患者に優しい病院づくり</b>								
○積極的な情報発信と相談体制の強化	①Wi-Fi設備の追加整備 ②訪日外国人旅行者受入れ医療機関としての施設の整備 ③外来モニターによるコンテンツの充実及び患者サービスの向上	入院患者満足度	89.3%以上	-	-	-	90.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者満足度調査は、11月9日から13日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>訪日外国人旅行者受入れのため電話医療通訳サービスに加え、翻訳デバイス（ポケトーク）を導入し、現場における外国人患者対応の充実を進めました。</li> <li>4月から入院センターを立ち上げました。立ち上げ当初は4科より入院前支援を開始し、10月までに小児科、産科、歯科口腔外科、精神科を除く全科に拡大する予定です。</li> <li>入院センターの支援件数は4月の130件から、9月には約3倍となる383件となりました。今後も患者様やそのご家族が、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるように、入院前から切れ目のない支援を行っていきます。</li> </ul>
	④ホームページやデジタルサイネージによる患者への情報発信 ⑤がん相談支援センターによる相談・情報提供体制の強化・推進 ⑥入院センターの開設による入院前からの患者支援体制の強化	外来患者満足度	81.7%以上	-	-	-	68.0%	

※R2.4月～9月（6ヶ月間）の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進</b>								
-	①午前退院・午後入院の促進、診療科を超えた柔軟な病床管理、増大する救急やがん等の医療需要への積極的な対応など、入院患者数の増加、病床稼働率の向上等の取組の推進 ②未収金対策として、文書催告・電話催告、入院時面談の実施強化 ③個室料金見直しの試行実施結果の検証を踏まえた他病棟への施行拡大	医業収益の額	179.8億円以上	72.4億円	164.5億円	91.5%	176.1億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病床利用率については、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度と比較して低下しています。</li> <li>・一般病床における稼働割合は84.3%です。(9月末日現在)</li> <li>・患者1人当たりの診療収入は入院・外来共に目標値を達成しています。6月に総合入院体制加算2、8月に急性期看護補助体制加算(夜間100対1)の算定を開始したことが影響していると考えられます。</li> <li>・個室料金見直しについては、前年度に行った試行を検証した結果、有効性が確認されたため、5床の見直しを行いました。</li> <li>・未収金対策として、上半期は文書催告2,016件、電話催告171件、面談34件を実施しました。</li> <li>※病床利用率は届出病床数を分母としているため、休床していた13階南病棟の病床数も分母に含まれています。</li> </ul>
		入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	60,358円以上	67,960円	67,960円	112.6%	64,897円	
		外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	12,586円以上	16,393円	16,393円	130.2%	15,294円	
		病床利用率	76.5%以上	56.9%	67.7%	88.5%	67.4%	
<b>取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進</b>								
-	①医療機器の購入にあたり、保守契約を含めた入札実施の検討・促進 ②医療機器保守契約の見直しによる委託料節減(MEセンターと協力) ③コンサルタント業者との連携による、材料費等の支出縮減に向けての取組	職員給与費対 医業収益比率	53.6%以下	56.9%	63.1%	84.9%	54.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度アドバイザー契約を結んだ、薬剤及び診療材料の価格交渉に実績がある業者と今年度も引き続き契約し、計26社の業者との打合せに同行させることで、納入価格引き下げに取り組みました。</li> <li>・医療機器の購入にあたり、保守契約を含めた入札を年度内に3件実施する予定です。今後も経営企画室契約担当と連携しながら対象案件の拡充を進め、委託料の縮減に取り組んでいきます。</li> <li>・医療機器の保守契約に係る来年度の予算要求にあたり、部品交換頻度の見直しを進め、委託料の抑制を図りました。今後も随時見直しを進めていく予定です。</li> </ul>
		委託費対 医業収益比率	12.8%以下	16.9%	17.0%	75.3%	14.1%	
<b>取組項目(3) 経営管理体制の強化</b>								
-	①経営会議による本計画の進捗管理の実施 ②病院幹部会議における病院経営状況等の報告 ③総合医療情報システムを用いた経営状況の周知 ④実現可能な施設基準取得への取組	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	30.0%以上	-	-	-	19.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>・診療科別目標管理制度を導入し、毎月の幹部会議(運営会議)において経営状況を確認及び経営改善策に対する依頼を行うとともに、四半期ごとに院長自ら全職員を対象としたメッセージを伝える場を設け、経営意識の醸成を図っています。引き続き経営意識の醸成を図ります。</li> <li>・施設基準ワーキングを定期的に開催し、新たな施設基準取得に向け課題を明確化し、取得可能な施設基準については届出を実施しました。(例：総合入院体制加算、急性期看護補助体制加算、医師事務作業補助体制加算など)</li> <li>・総合入院体制加算2を6月より算定し、退院患者「治癒」退院数、診療情報提供料の注8加算の実績数を運営会議で周知を行い、施設基準を維持するため病院全体で取り組んでいます。</li> </ul>
		経営会議開催数	10回以上	6回	12回	120.0%	12回	

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

# 取組進捗状況管理シート

井田病院

## 取組課題 1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>								
①救急医療 (初期・二 次)の強化	①川崎病院との連携による平日日勤帯の救急受入体制強化 ②職員の意識啓発に努め、救急搬送及びウォークイン患者の非応需率低下に向けた取組の推進 ③救急医療における院内トリアージの強化 ④事務職を含む全職員を対象とした一次救命処置技術習得への取組の推進	救急自動車搬送 受入台数	3,500件	1,118件	2,500件	71.4%	2,406件	<ul style="list-style-type: none"> <li>川崎病院への転送は順調に行われていますが、受入の強化も行う必要があります。</li> <li>新型コロナウイルス感染症診断のため発熱者診療をERで行っている影響で、ERの救急患者受入に制約がかかり、1日の救急車の応需数は減少していましたが、今年度準夜に救急医を配置することにより、8月頃から応需数は増加しています。</li> <li>救急需要が高い準夜帯に救急医を配置し、救急車だけでなく、外科系徒歩受診患者への対応を強化することにより、徒歩受診患者の応需率も増加し、院内トリアージ強化への課題は解消されつつあります。</li> <li>日勤～準夜帯にかけて、研修医の救急教育をおこなうとともに、診療科の当直医と協力し診療することにより、スムーズな患者の受入が行われています。</li> </ul>
		救急患者数	9,200人	3,726人	8,000人	87.0%	6,845人	
②災害医療機 能の維持	①災害協力病院として災害医療対応能力の更なる向上と全職員の役割発揮を図るための災害医療訓練の実施 ②災害用備蓄品の計画的な入れ替えの実施 ③災害発生時の医療強化に向けたDMA T-L 隊員の育成	災害拠点病院と 連携した災害訓 練の実施	実施	実施	実施	-	実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で大規模な訓練の実施はできていませんが、県・市内医療機関での通信訓練に参加したほか、災害時医療等委員会内でコロナ禍における災害医療対応机上訓練を実施し、対応について協議を行いました。</li> <li>備蓄用飲料水及び食品は、消費期限に応じて適宜入れ替えを行い、常時3日間分を確保しています。</li> <li>神奈川DMA T-L 隊員養成研修については新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていますが、再開され次第派遣する予定です。</li> </ul>
		食料・飲料水・ 医薬品の院内 備蓄確保量	3日間分	3日間分	3日間分	-	3日間分	
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>								
①地域がん診 療連携拠点病 院としての機 能強化	①対策型検診と任意型検診の受診促進に向けた活動と受入調整 ②県内のがん拠点病院で構成する協議会、部会に出席・情報交換 ③がんサロン、ピアサポート、患者力を考える会等の実施	がん登録数 (報告値)	1,300件以上	284件	1,200件	92.3%	1,343件	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内がん登録の体制強化に向け、前年度導入したシステムを活用し、登録対象患者を漏れなく、効率的に見つけ出せるようになりました。</li> <li>国の指針変更に伴う川崎市胃がん検診制度の見直しにより、内視鏡検診は平成30年4月から受診対象が40歳以上の方となり、受診できる間隔が2年に1度となりました。このため内視鏡検査件数は減少しています。また、令和2年4月から受診対象者が50歳以上の方に引き上げられることから、今後も減少が見込まれるため、引き続き、市民公開講座や出前講座等による啓発活動にも積極的に取り組んでいく予定です。</li> <li>がん手術件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、手術の実施件数は減少していますが、地域がん診療連携拠点病院の指定要件である年間400件以上を達成するとともに、ほぼ前年並みの件数を確保する見込みです。</li> <li>患者やその家族をサポートするプログラムとして、医師や看護師、他の参加者と悩みや不安を自由に話すことができる「がんサロン(月2回)」や臨床心理士のピアボランティアがお話をお聴きする「ピアサポート(週1回)」、患者同士でよりよい医療へのかかり方などを話し合う「患者力を考える会(月1回)」、乳がん患者さんのための「ピンクリボンサークル(月1回)」等を毎月開催しています。</li> </ul>
		内視鏡検査件数	7,700件以上	2,332件	4,700件	61.0%	6,522件	
		内視鏡治療件数	720件以上	221件	442件	61.4%	758件	
		がん手術件数 (4月～8月)	600件以上	180件	468件	78.0%	573件	
②緩和ケアの 推進	①緩和ケア科の医師を確保し、緩和ケアの外来、入院、在宅、救急ニーズへの適切な対応 ②緩和ケア科の初診を円滑に受けられるよう調整 ③在宅緩和ケアの積極的実施・充実強化 ④地域医療従事者を対象に緩和ケア研修会を開催し、緩和ケアの普及・啓発の実施	緩和ケア患者の 受入人数	552人以上	282人	564人	102.2%	538人	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケアの相談・初診面談は、がん相談担当が窓口となり、他院や患者からの相談にも即時対応できるよう取り組んでいます。</li> <li>医療密度の高い患者には、在宅医療・訪問看護を行っています。特に近隣医療機関・訪問看護ステーションとの機能別の役割を重視して取り組んでいます。また、看護部では、退院前後訪問を行い、退院患者が少しでも不安なく在宅に退院できるよう支援しています。</li> </ul>
		訪問診療件数	1,700件以上	621件	1,242件	73.1%	1,072件	

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

## 取組課題 1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>								
①チーム医療の推進	①緩和ケアチームによる症状緩和、カウンセリングなどの総合的な支援の実施 ②緩和ケアの研修及び教育の実施 ③神奈川県がん診療連携協議会・緩和ケア部会、学会などへの参加及び協力 ④緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策チームによる定例介入の実施 ⑤NST専従、専任者研修をはじめとしたスタッフの充実、研修及び教育	緩和ケアチームによる症状緩和実施延べ患者数	450人以上	209人	420人	93.3%	536人	・がんサポートチームは1日平均20名前後のがん患者・非がん患者の症状緩和、全人的苦痛に対する支援を実施しました。 ・新型コロナウイルス感染予防を行い、緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会を実施しました。 ・NST専従者交代に伴い、介入患者数は目標を下回っていますが、専従者を交代して経験することにより、間接的に院内の栄養管理の充実を図っています。また、NST研修の臨床研修を院内で行えるように調整中です。
		栄養サポートチーム回診延べ患者数	1,300人以上	541人	1,082人	83.2%	1,060人	
		褥瘡院内発生件数	100件以内	31件	80件	125.0%	86件	
②成人疾患医療の充実	①成人疾患医療の着実な実施 ②認定看護師を中心とした外来からの生活指導と療養支援の強化(禁煙外来・フットケア外来・在宅酸素外来など)	糖尿病教育入院実患者数	30人以上	12人	25人	83.3%	35人	・糖尿病教育入院では1週間及び2週間の2種類のコースを行っています。糖尿病に関する知識の習得や糖尿病食を経験していただくほか、眼科や歯科受診をはじめ全身の検査も行っています。 ・医師の配置に伴い、禁煙外来を設置しました。 ・専門外来では、患者の医療ニーズに合わせた支援を行うとともに、患者一人一人に寄り添った診察となるよう配慮しています。
		専門外来の設置数	23	27	27	117.4%	24	
<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>								
①地域医療連携の推進	①地域の医療機関との連携を強化するため、クリニック訪問や意見交換・交流を目的とした地域連携の会を開催 ②地域の医療機関向けに外来診療表等を毎月送付及び、診療科の紹介冊子の作成 ③紹介状作成等について院内広報紙での周知や医師へのオリエンテーションの実施 ④地域の医療機関等を対象とした研修会の開催(地域連携相互交流学習会・認定看護師による出張講座・症例検討会等) ⑤退院前合同会議等による顔の見える関係作り	地域医療支援病院の承認	平成29年度承認	取組の継続	取組の継続	-	取組の継続	・地域医療支援病院の名称承認については、前年同様ICUの施設基準取得が困難であり、申請を見送っています。 ・地域医療連携強化については、積極的にクリニック訪問を実施し、外来診療表や診療のご案内等を直接持参しています。 ・コロナ禍のため、院内における市民公開講座等の開催ができない状況ですが、地域を含めた感染対策として感染管理認定看護師と共に、高齢者福祉施設等にコロナ対策出前講座を実施しています。 ・紹介率については、コロナの影響もあり前年同月比200件程度減少していますが、その後は回復傾向にあります。 ・検査機器の共同利用については、コロナの影響により前年同月比で35件減少しているため、年間想定値を270件としています。
		紹介率	50.0%以上	55.8%	55.8%	111.6%	58.3%	
		逆紹介率	70.0%以上	57.1%	57.1%	81.6%	57.8%	
		検査機器の共同利用件数	800件以上	105件	270件	33.8%	265件	
②医療依存度の高い患者に対する在宅医療の提供	①がん末期、医療依存度の高い患者に対して、退院の時期を逸しないために、当院からの訪問診療導入のコンサルテーション機能の充実 ②症状悪化時の緊急住診の受入れだけでなく、家族に対してのメンタルケアの充実 ③病棟看護師による退院前後訪問の推進 ④地域医療部・病棟・外来の連携強化による退院支援の充実	医療依存度が高い患者に対する住診患者実数	190人	119人	238人	125.3%	176人	・前年度在宅療養後方支援病院を取得し、患者急変時24時間体制で患者を受け入れています。 ・がん患者、非がん患者や家族に対して緩和ケアチームやがん看護外来を中心に対応しています。 ・退院患者に対して、退院前後訪問を行い、退院後の療養が少しでも不安なく過ごせるよう対応しています。
		24時間連携登録医からの受入患者数	200人以上	141人	160人	80.0%	128人	
③地域包括ケア病床の整備と運営	①地域包括ケア病床の充実 ②院外からの積極的な患者受入体制の構築 ③円滑な病床運営のための課題抽出及び対策の検討 ④多職種による患者受入会議の定期的開催	地域包括ケア病床の整備	継続	継続	継続	-	継続	・毎週火曜日に多職種による地域包括ケア病棟の受け入れ会議を実施し、院内外からの受け入れ患者の調整を実施しながら病床運用を行っています。 ・新型コロナウイルス感染症への対応で、4月から7月まで他院からの受け入れを制限していたため、病床稼働率は低く推移しました。 ・地域包括ケア病床の稼働率UPに向けて、コンサルタント、医師、看護師、多職種で打ち合わせを毎月行っています。
		地域包括ケア病床の病床利用率	85.0%以上	65.3%	80.0%	94.1%	82.8%	
<b>取組項目(5) その他医療提供体制の強化</b>								
○井田病院再編整備事業の推進	病院敷地内の広場整備工事等の実施	再編整備事業(3期工事)の推進	-	平成29年度工事完了			-	・病院敷地内の広場整備工事等は今年度中に工事を完了し、令和3年度中に、病院再編整備事業に係る完了手続き等を終了する予定です。
		斜面防護工事の実施	-	令和元年度工事完了			工事完了	

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 人材の確保と育成の推進</b>								
①医療従事者の確保	①採用選考の適切な実施による優秀な初期臨床研修医、専攻医の確保 ②大学医局等との連携による常勤医の確保 ③看護師確保のための学校訪問やインターンシップ、看護師等医療技術職の学生実習の受入 ④院外における就職説明会・学校訪問の積極的な参加 ⑤医療事務職の活用やDPC制度運用講座の開催による診療報酬請求事務の強化及び専門能力の向上	職場に対する総合的な職員満足度〔職員満足度調査〕	50.0%以上	-	-	-	32.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>大学医局等との連携や採用選考の適切な実施により、職員の確保に努めています。</li> <li>全職員を対象としたDPC分析・診療報酬勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めています。</li> <li>新型コロナウイルス感染症により審査支払機関の審査に影響があったため、査定率が減少しています。救急医療管理加算・検体検査の査定が多く、適正な算定がなされるよう周知を行い、査定率の減少に努めています。</li> </ul>
		レセプト査定率	0.13%	0.22%	0.22%	59.1%	0.38%	
②職員の専門能力の向上	①人材育成計画に基づき各種研修会、講習会を積極的に開催 ②認定看護師の育成及び特定行為研修（在宅ケアプラン）への派遣 ③在職医師へ臨床研修指導医講習会受講の奨励	職場が「人材育成や能力開発に積極的である」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	56.0%以上	-	-	-	47.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>人材育成計画に基づき病院局が主催する集合教育と看護部教育委員会等が計画する研修や講習会を開催し、専門職として常に最善のケアを提供するための知識・技術・態度の向上に努めています。</li> <li>認定看護師は、今年度1名認定試験を受験する予定で、令和3年度は1名養成する予定です。</li> <li>特定行為看護師は3名在籍しており、今年度は2名派遣する予定です。</li> <li>臨床研修指導医講習会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催しておりませんが、今後は感染状況等を確認しつつ、若手医師を中心に指導医確保に努めてまいります。</li> </ul>
		認定看護師の人数	20名	16名	17名	85.0%	16名	
		研修医1人あたりの指導医数	4.9名	5.0名	5.0名	102.0%	4.0名	
③働きやすい職場づくり	①医師事務作業補助者の増員によるタスクシフトを積極的に推進 ②臨時的任用職員の任用などによる退職や産休・育休等に伴う欠員の減少	「仕事と私生活のバランスがとれている」と思う職員の割合〔職員満足度調査〕	50.0%以上	-	-	-	38.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> </ul>
<b>取組項目(2) 医療安全の確保・向上</b>								
○医療安全・院内感染対策の推進	①医療事故防止対策・感染防止対策を推進し医療の質を確保 ②施設基準「医療安全対策加算1」、「感染防止対策加算1」、「抗菌薬適正使用支援加算」の届出継続を維持 ③医療安全対策・感染対策について、職員向け研修会の開催	体制の確保（「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出）	届出(継続)	-	届出(継続)	-	届出(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全ラウンドでインシデント対策の周知と対策実行状態を確認しました。職員研修は「医療チームに目を向ける」をテーマにビデオ研修を複数回実施しました。複数回の研修は参加しやすいとの意見が多く聞かれました。</li> <li>新型コロナウイルス感染症流行下における院内感染防止の取り組みを、研修会や掲示物等を通じて啓発しています。また、感染対策・抗菌薬適正使用に向けた研修会も開催し、施設基準「感染防止対策加算1」「AST加算」を継続できるよう取り組みを行っています。</li> </ul>
<b>取組項目(3) 患者に優しい病院づくり</b>								
○市民に信頼される医療の提供と分かりやすい情報の発信	①市民公開講座や町内会など地域における医療に関する出前講座の開催 ②病院モニター会議の開催 ③外来休診情報の公開などホームページを活用した患者さんへの積極的な情報発信	入院患者満足度	91.3%以上	-	-	-	93.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院患者満足度調査は、10月5日から11月6日の期間で、外来患者満足度調査は、9月30日から10月2日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> </ul>
		外来患者満足度	82.6%以上	-	-	-	84.4%	

※R2.4月～9月（6ヶ月間）の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。



取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進</b>								
	①目標管理制度の活用による定期的な診療収入増加に向けた取組状況の確認 ②入院診療単価を引き上げるために、要手術患者の入院増加、平均在院日数の短縮 ③弁護士を活用した滞納債権回収の強化 ④午前退院・午後入院の促進など適切なベッドコントロールの実施及び地域包括・一般床・緩和・救急後方の各病棟における適正なベッド管理	医業収益の額	90.9億円以上	35.0億円	77.5億円	85.2%	85.9億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に伴い、患者数の減少がみられ、入院・外来収益ともに減収となっており、今年度上半期の実績値（4月～9月）では、昨年度と比較して約9%になります。</li> <li>入院収益では、DPC収入、出来高収入ともに昨年度に比べて減少しています。</li> <li>DPC収入では、延べ患者数、単価ともに減少しており、出来高収入においても、特定入院料、手術麻酔収入が減少しています。引き続き手術件数の増加を目指すとともに、効率的な病床運用に努めます。</li> <li>外来収益では、延患者数は減少していますが、診療単価は増加しており、収益としては前年度程度まで回復してきています。主に薬剤収入の増加により診療単価が増加しています。</li> <li>未収金対策は、川崎市債権対策実施要綱に基づき、未収発生から早期の段階で電話催告、文書催告及び訪問催告を実施し、きめ細かい対応を行っています。さらに弁護士を活用することにより効率的に滞納債権の回収に取り組みんでいます。今後も医療費滞納者に対する債権回収強化に努めていきます。</li> </ul>
		入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	48,613円以上	48,742円	48,742円	100.3%	46,387円	
		外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	14,607円以上	18,862円	18,862円	129.1%	17,626円	
		病床利用率	87.2%以上	64.2%	64.2%	73.6%	80.2%	
<b>取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進</b>								
	①各所属における医療機器保守業務委託の仕様見直し及び契約額の削減化 ②川崎病院との材料購入に関する情報交換・共同購入による経費節減の実施 ③無駄な在庫を持たないよう効率的な在庫管理を図り、経費節減の実施	職員給与と費対 医業収益比率	57.9%以下	61.8%	72.9%	79.4%	60.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>高額な医療器械の購入については、保守契約や専用消耗品（試薬等）の費用についても合併入札を行い、トータルコストで競争させることにより経費削減に取り組みました。</li> <li>既存の保守契約については、契約内容及び仕様の見直しを行い、保守対応時間の変更、点検回数・オプションの削減等を行うことで次年度契約金額を削減しました。また、新規の保守契約を検討する機器については、その医療機器の特性、故障した場合の診療への影響等を考慮しつつ最低限の仕様で抑制し、それ以外の機器は都度修理対応とすることで費用の削減に取り組みました。</li> <li>診療材料の購入については、川崎病院との情報交換、ベンチマークシステムの活用や、価格交渉に通じた外部委託業者と連携した価格交渉を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により診療材料の品不足や価格高騰が生じていますが、同等品の採用等により欠品が生じないよう診療材料を確保するとともに、購入金額を可能な限り抑えるよう取り組みました。</li> <li>昨年に引き続き、SPD（院内物流管理受託業者）と共同で年2回、倉庫から払出後の使用状況に関わる実地検査を実施し、使用期限の確認や各所属への注意喚起を行いました。払出しの定数については随時見直しを実施しています。</li> </ul>
		委託費対 医業収益比率	14.2%以下	12.2%	17.4%	81.8%	13.5%	
<b>取組項目(3) 経営管理体制の強化</b>								
	①全職員を対象とした病院の運営方針や経営に関する勉強会の開催 ②診療科等に対する経営に関するヒアリングの実施 ③井田病院経営戦略会議の定期開催	「病院の経営に参画したい」と思う職員の割合 〔職員満足度調査〕	40.0%以上	-	-	-	22.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員満足度調査は、10月5日から30日の期間で実施しました。現在、調査票の集計中です。</li> <li>年度当初、全職員を対象に、病院長による「病院運営方針等説明会」を開催し、今年度の病院としての重点取組項目（「新型コロナウイルス感染症対策」「がん診療の推進」「在宅療養支援の推進」「二次救急医療の体制強化」「地域医療連携の推進」「医療の質の向上」「井田病院の特色・強みの強化」）について周知しました。</li> <li>診療科やメディカルスタッフ部門等全41部署を対象とした、病院長等幹部職員による経営や病院運営に関するヒアリングを実施しました。</li> </ul>
		経営会議開催数	10回以上	5回	10回	100.0%	12回	

※R2.4月～9月（6ヶ月間）の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組進捗状況管理シート

多摩病院

取組課題 1 医療機能の充実・強化

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 救急・災害医療機能の強化</b>								
①救急医療 (一次(初期)・二次) の安定的な提供	①救急専門医、小児科医の安定的な確保 ②川崎市二次救急輪番制への参加	救急自動車搬送 受入台数	4,200件	1,852件	3,704件	88.2%	5,727件	・上半期前半は新型コロナウイルス感染症の影響があり、救急自動車搬送受入台数及び救急患者数は伸び悩んでいますが、後半になるにつれ徐々に回復傾向にあります。上半期に比べ院内でのPCR検査体制等も整ってきているため、下半期は少しでも目標値に到達できよう救急車及び患者獲得を目指していきます。
		救急患者数	13,000人	4,078人	8,156人	62.7%	13,256人	
②災害医療機能の維持	①災害派遣医療チームの隊員の増員 ②災害訓練の実施 ③備蓄品(食料、飲料水、医薬品)の適切な補充・交換	DMAT 隊員 養成研修 修了者数	8人	9人	9人	112.5%	12人	・DMAT隊員については、新型コロナウイルス感染症の影響でDMAT研修が中止となっているため、前年度と変わらず9人でした。今後も、安定的なDMAT隊員の確保に取り組んでいきます。 ・院内備蓄確保については、適切な補充と交換を行い安定的な運営及び確保に随時取り組んでいきます。
		食料・飲料水・ 医薬品の院内 備蓄確保量	3日間分	3日間分	3日間分	-	3日間分	
<b>取組項目(2) がん診療機能の強化・拡充</b>								
○診療機能強化と報告の推進	①化学療法の積極的な実施 ②「地域がん登録」、「全国がん登録」への参加	がん登録数 (報告値)	850件以上	219件	438件	51.5%	522件	・上半期のがん登録件数については、219件であり前年度より124件減少しています。初診患者数の減少による影響が大きいと考えられます。がん手術件数については、昨年度上半期より21件増加となりました。消化器内科領域の内視鏡治療が増加傾向にあります。今年度より血液内科医が常勤となりましたので、造血管腫瘍関連の件数増加に努めていきます。
		がん手術件数	350件以上	201件	402件	114.9%	398件	
<b>取組項目(3) 高度・専門医療の確保・充実</b>								
①循環器内科における診療の充実	①循環器内科医の安定的な確保 ②心疾患領域における短期入院診療の充実	心臓血管系 造影件数	740件以上	265件	530件	71.6%	668件	・循環器造影検査は、前年度上期より54件減少、患者数は590人減少しました。入院延患者数は、前年度上半期より5.1%減少、外来延患者数は前年度上半期より8.4%減少となっており、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられます。
		循環器内科 入院・外来 延患者数	19,800人以上	7,564人	15,128人	76.4%	17,117人	
②脳神経外科における診療の充実	①脳神経外科医の安定的な確保 ②血栓溶解療法(t-PA治療)の実施 ③専門外来の継続	脳血管系 造影件数	220件以上	37件	74件	33.6%	70件	・脳神経外科では、入院・外来延患者数が721人減少しました。前年度上半期より、外来患者7.8%、入院患者13.2%の減少となっており、救急経由の入院患者減少が大きな原因と考えられます。造影検査は8件増加しており、下半期に向け更なる検査件数の増加を目指していきます。
		脳神経外科 入院・外来 延患者数	16,300人以上	5,801人	11,602人	71.2%	13,503人	
<b>取組項目(4) 医療機能の分化・強化、連携の推進</b>								
①地域医療支援病院の運営と強化	①登録紹介医制度の推進 ②検査機器等の共同利用の推進	紹介率	65.0%以上	70.2%	70.2%	108.0%	72.2%	・新型コロナウイルス感染症の影響で患者自身が医療機関への受診を自粛し、近隣のクリニックにも患者が受診しなかったため紹介患者数が激減しました。紹介状を持参しない初診患者数も減少したため紹介率・逆紹介率に影響はありませんでした。検査機器の共同利用件数については各学会より案内があり、不要不急の検査の自粛を近隣医療機関に呼びかけたことで紹介患者数と同じく大きく減少しました。
		逆紹介率	40.0%以上	63.2%	63.2%	158.0%	58.8%	
		検査機器の共同 利用件数	4,750件以上	1,477件	2,954件	62.2%	4,180件	
②地域包括ケアシステムの推進	①在宅療養を支援するため、地域の訪問看護ステーション等と意見交換を行う「多摩区・病院と在宅ケアネットワークづくりを目指す会」の充実 ②地域医師会との懇親会の定期開催	地域関係施設との 連絡調整会議への 参加回数	8回	0回	0回	0.0%	21回	・登録紹介医を対象に、病院組織体制の変更、及び当院における新型コロナウイルス感染症への対応について、説明の機会を設けたのみで、その他予定していた会議等は新型コロナウイルス感染予防の観点から全て中止しました。
		有識者を参集して 行われた連携会議 等の回数	6回	1回	1回	16.7%	6回	

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 人材の確保と育成の推進</b>								
①医療従事者の確保	①病院実習生の受入れ ②病院見学・インターンシップの受入れ	基幹型臨床研修医の受入れ	8人	10人	10人	125.0%	10人	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹型臨床研修医の受入れについては、今年度から10人に拡充いたしました。</li> <li>医師事務作業補助者の人数については、現在17人となっております。加算は2.5対1の配置で算定しています。今後も増員を進めていきます。</li> </ul>
		医師事務作業補助者の人数	10人	17人	17人	170.0%	17人	
②職員の専門能力の向上	①認定看護師取得のためのサポート ②診療情報管理士の安定的な確保	認定看護師の人数	9名	9名	9名	100.0%	10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師の人数については、変更はありません。認定看護師とは別に専門看護師が以前より1名配置されています。</li> <li>診療情報管理士の人数については、変更はありませんが、今後も増員を進めていきます。</li> </ul>
		診療情報管理士の人数	14名	14名	14名	100.0%	16名	
<b>取組項目(2) 医療安全の確保・向上</b>								
○医療安全の強化	①医療事故の防止及び迅速な対応 ②医療安全対策に係る研修を受けた専門看護師等の配置 ③感染対策の十分な経験を有する医師・看護師等の配置 ④感染制御チームによる活動の推進	体制の確保 (「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」に係る診療報酬施設基準の届出)	届出(継続)	-	届出(継続)	-	届出(継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も「医療安全対策加算1」及び「感染防止対策加算1」を維持していきます。</li> </ul>
<b>取組項目(3) 患者に優しい病院づくり</b>								
○分かりやすい情報提供と利用しやすい施設の強化	①医療相談センターにおける患者相談窓口の一元化 ②ホームページの内容の充実 ③市民健康講座の開催	入院患者満足度	89.3%以上	-	-	-	86.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、患者満足度調査は、新型コロナウイルス感染症の影響で年1回の調査とし、12月以降に実施する予定となっております。</li> </ul>
		外来患者満足度	81.7%以上	-	-	-	79.1%	

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。

取組項目	令和2年度の主な取組内容	成果指標名	R2年度 目標値	上半期 実績値(※)	年間 想定値	達成率	R1年度 実績値(参考)	成果指標などの状況と成果の分析、今後の方向性
<b>取組項目(1) 収入確保に向けた取組の推進</b>								
-	①医療機能の充実・強化による診療収益の確保 ②精度の高い診療報酬請求 ③未収金督促・催告の強化	医業収益の額	89.7億円以上	41.6億円	87.2億円	97.2%	96.1億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で入院・外来ともに患者数・診療収益は大きく下がっていますが、登録紹介医への積極的な訪問及び動画配信等による紹介患者数増加の取り組みを行っています。</li> <li>査定については各科担当事務が分析を行い、また、実際の審査を行っている医師が委員長であるレセプト審査委員会で事例検討を行い、精度の向上に努めています。</li> <li>未収については未収を発生させない施策として、入院時から看護師・ソーシャルワーカー・医事課による情報共有、早期介入や連携を行っています。また、未収患者については電話や文書による督促とともに未収台帳を作成し、医事課内で情報共有、及び各部署と連携して行っています。</li> </ul>
		入院患者1人1日 当たり診療収入 (入院診療単価)	55,800円以上	65,253円	65,253円	116.9%	57,355円	
		外来患者1人1日 当たり診療収入 (外来診療単価)	11,700円以上	14,666円	14,666円	125.4%	14,349円	
		病床利用率	80.0%以上	67.3%	70.0%	87.5%	83.0%	
<b>取組項目(2) 経費節減に向けた取組の推進</b>								
-	①適正な在庫管理 ②業務効率化による時間外勤務の縮減	職員給与費対 医業収益比率	53.1%以下	-	57.0%	93.2%	52.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な在庫管理については、物流センターによる全部署の在庫見直しを毎年1回実施し、その他必要に応じて随時対応しています。</li> <li>業務効率化による時間外勤務の縮減については、「医療従事者業務負担軽減検討委員会」において、医療従事者の勤務状況を把握したうえで、処遇の改善策を講じています。また、時間外勤務についても同委員会において、半月及び1ヶ月ごとに勤務内容を評価し、各所属長へ注意喚起するなど改善策を講じています。</li> </ul>
		委託費対 医業収益比率	14.9%以下	-	16.6%	89.8%	14.2%	
<b>取組項目(3) 経営管理体制の強化</b>								
-	①幹部会議を通じた収支状況等の各職員への周知 ②経営戦略会議の開催	経営戦略会議開催数	11回	6回	12回	109.1%	12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月開催の経営企画会議において、収支状況等の報告、経営戦略についての企画立案、実施、評価、改善を行っています。</li> <li>収支状況等の各職員への周知は、管理運営会議にて各部門責任者へ周知しています。</li> </ul>

※R2.4月～9月(6ヶ月間)の実績値を記載しております。ただし、特段の事情がある場合は、成果指標欄に実績期間を記載しております。